

『第69回全国植樹祭開催される』
「育てよう 希望の森を」のちの森を

森林整備部 技術普及課

6月10日(日)、磐城森林管理署管内の福島県南相馬市(海岸防災林整備地)を主会場として、天皇皇后両陛下のご臨席のもと、「育てよう 希望の森を」のちの森を」をテーマに第69回全国植樹祭が開催されました。

福島県での全国植樹祭の開催は、昭和45年に猪苗代町で第21回が開催されて以来、48年ぶり2回目となり、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の発生後、東北の被災地では初めての開催となりました。

当日はあいにくの小雨模様でしたが、式典が始まる直前には雨もあがり、参加した約4,900人により、式典会場隣接地約5haに福島県の方々が育てたクロマツなど18種類の苗木2万本を植樹しました。

プロローグでは、福島県各地域の伝統芸能や震災からの復興を象徴するアトラクションとして、霊山太鼓や山木屋太鼓、会津彼岸獅子、フラダンスが行われ、その他、感謝状の贈呈や、平成28年度より福島県内全市町村を巡った「森林とのきずなづくり植樹リレー」のゴールセレモニーなども行われました。

記念式典では、天皇皇后両陛下によつて、海岸防災林の基本樹種である「クロマツ」や福島県と開催地南相馬市の木である「ケヤキ」のほか、「スダジイ」「アカマツ」「ヤマザクラ」「ヤブツバ



シンボルマークと大会テーマ



代表者記念植樹
(漆原前局長)



緑の募金を呼びかける
「ミス日本みどりの女神」

キ」の6種の「お手植え」や、福島県と関わりの深い樹種の「津島マツ」「飯豊スギ」「ベニシダレ」、東日本大震災被災地の復興のシンボルとなった「マルバシヤリンバイ」の4種の「お手播き」が行われました。

メインアトラクションでは、高校生たちが高村光太郎・智恵子をモチーフにした踊りや演劇を発表し、復興へ歩む福島県の姿や様々な支援への感謝の思いを全国からの参加者に伝えられました。

リレーセレモニーでは、福島県知事から来年度の開催県である愛知県知事へ「全国植樹祭のシンボル」である「木製地球儀」が手渡され、次回植樹祭へ開催が引き継がれました。

また、式典会場と大玉村の「ふくしま県民の森」に設けられたサテライト会場

が双方方向中継で結ばれ、サテライト会場でのスギの記念植樹の様子が紹介されるなど、参加者の緑豊かなふるさと再生への願いが式典会場へと繋がりました。福島市、郡山市、白河市、会津若松市の4箇所開設されたPR会場にも式典会場の様子が放映され、多くの家族連れなどが訪れていました。

グラントフィナーレでは、大会テーマソング「福ある島」(郡山市ゆかりのGreene作詞作曲)を出演者全員で合唱し、大きな歌声が響き渡り会場が一つになりました。

式典会場に隣接した「おもてなし広場」では、福島県の魅力象徴する特産品や飲食物の販売、民芸品の張り子の販売、木製品や森林・林業に関する企画展示などの様々なブースが展開され、ステージでは音楽や踊りが行われるなど、福島県内外からの参加者へ福島県の魅力がPRされるとともに、感謝の気持ちを込めた暖かいおもてなしがなされていました。



ブース出展
(草木染めと木炭)



ブース出展
(大賑わいの木製ストラップ)



関東森林管理局では、地元磐城森林管理署がブースを出店し、東日本大震災で甚大な津波被害にあった「松川浦海岸林再生に向けた取組」や「絵で見る日本の森林」のパネル展示、草木染めや木炭の展示を行うとともに、木製ストラップやコースター等の制作体験等をするコーナーを設けたところ、順番待ちが出る程、大人から子供まで多くの人で賑わい、子供達は、自分で作ったドングリや松ぼっくりを使った動物顔のコースターやストラップの完成品を見せ合ったり、記念写真を撮ったりと嬉しそうな顔をしていました。また、ブース入口の「木の名前漢字クイズ」のパネル前では、多くの人たちが真



法被とのぼりで
「山の日」PR

剣な顔でクイズにチャレンジしていました。

大盛況だった磐城森林管理署のブースには、立ち寄り者延べ千人程と、多くの皆さんに楽しんでいただくことができました。

来年の第70回全国植樹祭は、愛知県森林公園（愛知県尾張旭市）で開催されます。

きのこ特集

夏に発生するきのこ

夏に良く発生が確認される「きのこ」を紹介します。

カワリハツ（食用）（ベニタケ科 ベニタケ属）

七月上旬から十月上旬にかけて、里山や森林公園内等の広葉樹林内地上に散生します。

カサは5cmから8cm位で表面は淡赤色や青色又は黄緑色と変化に富んでいる所からカワリハツ

と言う和名が付
けられました。

柄は4cmから
七cm位で白色で
平滑です。

ヒダは白色で柄
に直角に接する
直生から柄に円



を描くように接する上生です。

ベニタケ属のきのこには珍しくヒダは柔軟で壊れにくいのが特徴です。ベニタケ属のきのこのほとんどの種は、ヒダを指で触るとすぐに壊れてしまいます。

ツルタケ（毒）（テングタケ科 テングタケ属）

七月上旬から十月下旬にかけて広葉樹林内地上に単生から散生します。

カサは5cmから7cm位で表面は淡灰色から灰色で溝状の線があります。

柄は7cmから10cm位で表面は白色で上部に白色のツバ（内皮膜）

はなく、下部に鞘状のツボ（外被膜）が

あります。ヒ

ダは白色でヒ

ダが柄のつけ

根と離れてい



ヤコウタケ（夜光茸）

傘直径約2cm。主に八丈島、小笠原諸島に自生。梅雨～夏に発生。強い光の日に没前に目立つ。

今月の表紙

「南から来た火山の贈り物（伊豆半島）」

伊豆半島は、約二千万年前に現在の小笠原諸島の硫黄島付近にあった海底火山群が、フィリピン海プレートとともに北へ移動し、本州に衝突して形成されました。

大きな地殻変動や火山活動によって形づくられた豊かな自然や美しい景観、そして特有の文化は国際的にも評価され、今年四月、国内で9地域目の「ユネスコ世界ジオパーク」に認定されました。

伊豆の国有林は、海洋に面する天城連山を中心に分布し、太平洋岸では珍しい広範囲なブナ林をはじめ、ヒメシャラやカエデの天然林が広がっています。また、水流が磨き上げた美しい溶岩の岩肌が見られる滑沢渓谷などのジオサイトがあり、多くの人々が訪れています。ジオパーク登録以降、観光客も増加傾向にあり、今後は地域と連携しながら適切に国有林を管理していきます。

